

平成30年度 事業報告書

社会福祉法人 広虫荘

特別養護老人ホーム 広虫荘

(短期入所・デイサービスセンターひろむし)

特別養護老人ホーム 和気広虫荘

(短期入所・訪問介護)

グループホームひろむし

ケアハウス わけ

平成30年度 事業報告

社会福祉法人 広虫荘

I. 社会福祉法人本部

1. 法人事業の実施状況

平成30年度は、主となる介護保険事業の中で平成12年度より運営していた訪問介護事業の完全廃止を完了するため、利用者のスムーズな移行を目標に最後の運営を行った。

各拠点の報告は後述するが、本年も職員の人材確保についても非常に厳しい状況であり、また利用者の獲得についても稼働率の低迷が続き全体的な収支へ影響を与えた。

昨年度より本格的に取り組んでいる「地域における公益的な取り組みの実施」については、具体的な取り組みが実現できた。

(1) 理事会・評議員会の開催

各会議については、以下の通りである。

理事会・評議員会については、概ね計画通りの実施ができ、事業計画・報告、補正予算計画、各規定等の改定、理事長の専決事項の報告等を行った。

今年度は、苦情解決委員会を開催し、第3者委員の方々に苦情及び事故等の報告を行い、客観的な視点でのアドバイスを頂いた。

①理事会（6名）の開催

6月・9月・12月・3月 の 年4回開催（文書による決議を8月に実施）

②評議員会（7名）の開催

6月・3月 の 年2回開催

③会計監査の実施

監事による監査 5月に実施

④評議員選任・解任委員会（5名）

平成30年度は、開催なし

⑤苦情解決委員会の開催（第三者委員：2名参加）

10月に実施

(2) 経営会議・運営会議の開催

理事長を中心に常務理事・各施設長による経営者会議の開催が、毎月1回予定通り開催できた。事業執行上の重大かつ具体的な問題や課題に対処するとともに中期的な経営計画を検討した。

事業部門の運営管理は理事長・常務理事の参加の下・各施設長・各事務長・各サービス課長により構成される管理職会議を月1回開催し、各事業の進捗状況や運営状況を報告するとともに迅速な意思決定に基づく合理的・効率的な事業執行を行うことができた。

(3) 財務・会計業務

会計基準にもとづく会計処理を行い、予算および入金管理等堅実な会計処理を行うとともに資産の安定的な管理をおこなった。決算前には、監事による監査を受け、課題点・

評価点を頂いた。

(4) 人事労務管理

今年度は、就業規則及び給与規定の改定を行い当法人も従業員の働き方について検討した。とりわけ、業務手当と資格手当について介護保険制度に準ずるように改めた。

また、年度を通じて職員の受け入れを行ってきたが、人材の確保には困難を極めている。ハローワークのほか人材紹介・派遣会社や就職サイトについても僅かではあるが取り組んでいるものの大きな成果は見られなかった。今後は、福祉系学校・学部卒業者のみならず、他学部卒業者や高校卒業生など幅広い人材の活用を検討する必要がある。

(5) 職員教育

新人研修・・・3名(4月2日、3日実施)

法人合同研修・・・9回

介護職員等の喀痰吸引研修(第2号研修)・・・6名(終了は令和元年度に繰越)

(6) 施設整備・管理

修繕計画に基づき概ね実施できたが、施設・設備の老朽化により思いがけない故障が発生し、修理・取替が必要となり修繕費や器具備品費の支出が増加した。

(7) 防災対策

平成30年7月の西日本豪雨時には、「避難準備・高齢者等避難開始」情報等に細心の注意を払い万が一に備えたが、幸いにも広虫荘・和気広虫荘ともに大きな被害はなく事なきを得た。

今回の教訓を糧に、BCP計画についても早期に取り組む必要がある。

(8) 訪問介護事業所の廃止

平成12年より運営を行ってきた訪問介護事業所について利用者の確保と収支バランスの関係で廃止とした。利用者には早期に事業廃止について理解を求めるカンファレンスを繰り返し、引き続きサービスの必要な方には、代替事業所の紹介をケアマネジャーとともに行った。当法人における訪問介護事業の沿革については、次の通り。

平成12年4月	ヘルパーステーションひろむし及びわけひろむし	事業開始
平成25年5月	ヘルパーステーションひろむし	事業休止
平成26年5月	ヘルパーステーションひろむし	事業廃止
平成31年3月	ヘルパーステーションわけひろむし	事業廃止

公益事業

(1) 喀痰吸引等研修事業

平成25年度より実施している研修も5年が経過し、当法人介護職員の9割以上が研修修了者として登録することができている。(14条経過措置者含む)

更に、今年度新たに夜勤体制加算の算定要件に上記研修修了者の配置についてが加わり以前より加算額の増加が見込めるようになった。

(2) 生活困窮者支援事業

赤磐市社会福祉協議会の声掛けで赤磐市社会福祉法人連絡会が発足し、地域公益活動として生活困窮者支援事業を行っている。当法人もその一員として活動に賛同し、また生活困窮者一時支援事業として職員住宅を利用する提携を行った。また、フードドライブ事業においては、近隣の町内会への情報発信を行い、食品収集を行った。

Ⅱ. 介護保険事業（介護予防事業等含む）の状況

1. 個別ケアの充実とサービスの質の向上。

○職員研修の実施(月1回)、法人内研修(月1回)の計画を立て、概ね実施できた。

その他、外部研修への参加を行った。

2. 防災計画の充実

○災害の予防を図り、万が一の災害時には被害を最小限に食い止めるため、各種の防災訓練(年2回)や整備点検を行った。

○事業継続計画(BCP)については、平成30年度西日本豪雨災害が発生したことから、早期に検討を行い、作成するよう務める。

3. 地域との連携強化

○例年の夏祭りを敬老会と合わせ「敬老フェスタ」として開催し、地元磐梨中学校の吹奏楽部のミニコンサートを実施し地域住民の方々にも参加頂ける行事とした。

ただ、室内で実施した事により、手狭になり家族の団らんが取りにくくなったとの反省もあり、次年度は今一度内容について検討し計画する事が必要。(広虫荘)

○近隣地域のサロン会、「くまカフェ」への参加(年2回)を行い地域住民と情報交換を行うことができた。しかし、広虫荘サロン会が開催できなかったためPRの機会が少なかった。(広虫荘)

○地域の社会活動への一環として、ケアカフェを、ケアハウス・グループホームと共同で毎月1回開催し好評を得た。(和気広虫荘)

○ボランティア・実習生などに対し、社会活動実践の場を積極的に提供した。

○市社協出前講座……4回(山陽東小学校、磐梨小学校、豊田小学校、桜が丘中学校)

	広虫荘	和気広虫荘
旭川荘厚生専門学院	2名	1名
教員養成	1名	1名
中学生夏ボラ体験(磐梨中)	5名	4名
職場体験・見学	1名	
栄養実習		1名

4. 次世代を担う職員の人材育成及び確保

○職員のキャリア・アップを推進・支援していく役割を担うアセッサー講習に、広虫荘から1名の受講を行い、人材の育成に努めた。しかし、キャリア段位取得までには至っていない。

今後、職員のスキルアップに向け、キャリア段位取得のみならず、人材養成について検討する必要がある。

○内・外部における研修(認知症実践者研修・リスクマネジメント研修、生活相談員研修等)に参加し、社会福祉に関する知識や技術・一般常識等養い、専門的知識・技術の向上をおこなった。

○今年度は、就職面接会等への介護職員等の参加を行うことで、自ら次世代の職員を獲得する意欲を養成した。特にハローワークや県社協主催の就職面接会だけではなく、高校生対象の就職セミナーや企業合同紹介会に参加することで、来年度新規採用者を獲得することができた。

5. 安定した経営を行う

○稼働率95%を目標に1年間運営したが、2つの特別養護老人ホームでは目標の達成ができなかった。グループホーム、ケアハウスについては、目標達成ができた。

○健康管理・事故予防に務めたこと。また、インフルエンザ・ノロウイルス等の注意報・警報時期での荘内感染者は数名いたものの、広く拡散することはなく終焉できた。

○今後もより一層、営業努力・サービスの質の向上・利用者の満足度の向上を目標に経営努力を行うことが必要である。

(Ⅱ-1) 特別養護老人ホーム広虫荘・広虫荘短期入所生活介護事業所・デイサービスセンターひろむし

開設：昭和45年5月1日 開設
 種別：介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）／定員：110名
 短期入所生活介護事業／定員：4名
 （4人部屋10室、3人部屋7室、2人部屋21室、個室11室）
 通所介護事業／定員：19名／1日
 構造・面積 鉄筋コンクリート5階建
 建物面積／4,547.87㎡

① 介護老人福祉施設 年間の利用者状況

	延べ利用人数						平均 介護度	日 数	利用率 %
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	1,933	8,292	8,701	10,365	7,040	36,331	3.14	365	90.49
前年度	2,070	8,026	7,520	11,662	6,757	36,035	3.0	365	89.75
比 較	△137	266	1,181	△1,297	283	296	—	—	0.74

② 短期入所生活介護事業 年間の利用者状況

	延べ利用者数						平均 介護度	日 数	利用率 %
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	63	59	244	96	188	683	3.27	365	46.78
前年度	164	172	269	21	205	831	2.9	365	57.33

比 較	△101	△113	△25	75	△17	△148	—	—	△10.55
-----	------	------	-----	----	-----	------	---	---	--------

③ 通所介護等事業 年間の利用者状況（延べ利用人数）

	要支援		要介護					計	1 日 平均
	1	2	1	2	3	4	5		
4 月	4		130	8	72	20	25	259	10.36
5 月	5		124	9	79	12	17	246	9.46
6 月	4		117	35	54	7	19	236	9.8
7 月	4		109	56	43	30	11	253	9.73
8 月	4		107	50	39	38	17	255	9.44
9 月	4		101	33	35	21	17	211	8.44
10 月	4		110	38	42	13	17	224	8.3
11 月	5		102	37	40	13	5	202	8.08
12 月	4		100	34	48	12	9	207	8.28
1 月	4		96	34	47		4	185	7.71
2 月	4		86	16	61	3		170	7.08
3 月	4		100	18	63	3		188	7.23
計	50		1282	368	623	172	141	2,636	8.67
前年度	56	155	951	318	645	71	620	2,816	9.1
比較	△6	△155	331	50	△22	101	△479	△180	△0.43

④ 職員の状況

平成 31 年 3 月 31 日現在

	施設長	事務長	サービス課長	事務員	相談員	介護支援専門員	看護職員	介護職員	機能訓練指導員	栄養士	調理員	濯 介 助 員 （ 掃 除 ・ 洗	夜警員	嘱託医
H30 特養	1	1	1	2	2	4	7	38	1	3	7	5	2	1
常勤換算	1	1	1	2	1.2	2.7	6.7	36.4	1	2.5	7	3.8	2	1
H29 特養	1	1	1	2	2	3	7	41	1	3	7	4	2	1
常勤換算	1	1	1	2	1.2	2.5	6.7	39.9	1	2.5	7	2.8	2	1
H30DS					2		1	4						

○資格等の取得状況（複数の資格を持つ職員もいます。）

社会福祉士 3 名 介護支援専門員 9 名 介護福祉士 30 名 社会福祉主事 7 名
管理栄養士 1 名 調理師 2 名

（Ⅱ－２）特別養護老人ホーム広虫荘等の総括

○特別養護老人ホーム広虫荘の年間稼働率 95%を目標に運営を推進したものの、最終的には 90.49%となり目標にはおおよばないものの、昨年より僅かではあるが上昇した。

年間の入院者数は、延べ約 530 人で、昨年より 1,000 人少ない状況で、日々の健康

管理と予防に努めている効果がでている。入院者を含む年間入居率は、91.8%であった。さらなる待機者の増員及び申込者の確保が必要である

○経費節減を目標に掲げたが、空調設備故障、蛍光灯等の故障、給湯器の取替、屋上からの雨漏りなどの計画外の修繕や更新が相次ぎ、昨年同様修繕費が大幅に増加した。

○通所介護事業所では、目標の平均利用者数は、10人/日としていたが、年間平均は8.67/日であった。前年度比0.43人/日減少した。利用者の重度化により施設入所により利用終了となるケースが多かった。

年間の行事については、四季折々の歳事だけでなく、文化祭や熊山フェアなど利用者と一緒に実施できる行事を企画した。

○利用者の声に積極的に耳を傾け、小さなニーズも拾い出し、利用者が施設内での暮らしを快適に継続できるように常に環境整備に配慮し、且つ、終末期を迎えるにあたっては、本人はもとよりご家族が安心して寄り添えるよう看取り介護の体制を推進した。

(Ⅱ－３) 特別養護老人ホーム和気広虫荘・和気広虫荘短期入所生活介護事業所
・ヘルパーステーションわけひろむし

開設：昭和51年5月1日
種別：介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）／定員：100名
短期入所生活介護事業／（空床型）
（4人部屋19室、3人部屋1室、2人部屋10室、個室1室）
構造・面積：鉄筋コンクリート1階建（一部2階建）
建物面積：2,377㎡

① 介護老人福祉施設 年間の利用者状況

	述べ利用者数						平均 介護度	日数	利用率
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	820	3,340	7,290	12,557	8,931	32,938	3.90	365	90.25
前年度	1,132	2,928	8,386	13,701	6,973	33,120	3.67	365	90.74
比較	△312	412	△1,096	△1,144	1,958	△182	0.23		△0.49

② 訪問介護事業 年間の利用者状況（延べ人数）

	要支援		要介護					計	延べ 訪問時間
	1	2	1	2	3	4	5		
4月	22	45	48	8	0	0	0	123	120:07
5月	26	47	52	9	0	0	0	134	128:41
6月	31	35	44	9	0	0	0	119	113:52

7月	24	43	44	9	0	0	0	120	114:40
8月	18	42	57	18	0	0	0	135	128:18
9月	18	34	56	21	0	0	0	129	116:52
10月	20	35	57	23	0	0	0	135	122:21
11月	17	34	48	21	0	0	0	120	109:12
12月	23	34	58	21	0	0	0	136	127:49
1月	26	32	61	20	0	0	0	139	126:46
2月	28	32	57	20	0	0	0	137	124:00
3月	30	26	47	22	0	0	0	125	110:44
計	283	439	629	201	0	0	0	1552	1443:19
前年度	530	493	1,692	131	180	54	0	3,090	2300:46
比較	△247	△54	△1,063	70	△180	△54	0	△1,538	△853:27

③ 職員の状況 (内は、派遣職員)

平成31年3月31日現在

	施設長	事務長	サービス課長	事務員	生活相談員	介護支援専門員	看護師	介護職	機能訓練指導員	栄養士	調理員	掃除・洗濯員	夜警員	嘱託医
H30 特養	1	1	1	1	3	1	6 (1)	35 (1)	1	3	8	1	2	1
常勤換算	1	1	1	1	3	1	4.7 (0.8)	33.3 (1)	1	3	7.5	1	2	1
H29 特養	1	1	1	1	3	1	6 (1)	37 (1)	1	3	8	1	2	1
常勤換算	1	1	1	1	3	1	4.8 (0.8)	34.1 (1)	1	3	7.5	1	2	1
訪問介護								5						
ケアハウス					1			3			1			
グループホーム								15						

○資格等の取得状況 (複数の資格を持つ職員もいます。)

社会福祉士 3名 介護支援専門員 10名 介護福祉士 46名 社会福祉主事 5名
 管理栄養士 1名 調理師 2名 基礎研修 0名 ヘルパー2級 12名

(Ⅱ-4) 特別養護老人ホーム和気広虫荘等の総括

○和気広虫荘の適正な収入の確保として、特養の年間稼働率 95%を目標に運営推進してきたが、年間入院者数 1,667名 (前年度比 △31.7%)、入居者 40名 退去者 40名により、90.2%となり、目標稼働率を5%下まわった。入院者を含む年間入居率は、97.0%となり、入院者の減が稼働率増加の早道と思われる。

○法人理念に基づき、公共的・公益的かつ信頼性の高い運営及び経営を実践し、施設の役割として、経営能力の更なる向上に努めた。

重度化に対応するため、施設内での医療的ケアや、増加する認知症の方への対応など状

況の変化に対応したサービスを提供した。

○利用者の声に積極的に耳を傾け、小さなニーズも拾い出し、利用者が施設内での暮らしを快適に継続できるように常に環境整備に配慮し、且つ、終末期を迎えるにあたっては、本人はもとよりご家族が安心して寄り添えるよう看取り介護の体制を推進した。

○平成29年度に、経済産業省のZEB実証事業に採択され施設整備（空調設備・照明設備・エコ給湯・断熱整備）を行ったことで、電気使用量が、前年度より、13%削減により115万円、また入浴設備も、ガス給湯器からエコ給湯に整備したことで、ガス代も50万円削減でき、合わせて165万円の経費削減が出来た。

○訪問介護事業では、人員確保が難しいことから、平成29年度後半より、実施地域を和気町内のみの活動としサービスの提供をおこなってきたが、訪問介護員の高齢化と人員確保も難しく、今年度末で事業の廃止とした。

（Ⅱ－5）グループホームひろむし

開設：平成13年4月23日
種別：認知症対応型共同生活事業 入所定員：18名（個室18室）
面積：250.62㎡（ユニット1） 248.84㎡（ユニット2）

① 年間の利用者状況

	述べ利用者数						平均 介護度	日数	利用率
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	2,855	1,296	1,777	214	21	6,163	2.32	365	93.81
前年度	2,483	1,405	2,316	72	0	6,276	1.90	365	96.50
比較	372	△109	△539	142	21	△113	0.42		△2.69

（Ⅱ－6）グループホームひろむしの総括

○今年度の入所の状況は、新入居者7名・退去者8名、入院者は16人により、年間288人（前年度対比△16.5%）となり、利用者稼働率は93.8%となった。

○運営推進委員会については、年6回開催した。

○和気町地域密着連絡協議会には（年6回定期的に開催）、毎回出席し研修、情報交換等を行い、連絡も密に取り合っている。

○家族会（年2回）、地域ケアカフェ（月1回）、その他の行事等は予定のとおり実施できた。
（1月と2月は、ケアハウス入居者がインフルエンザに罹患され中止した。）

○ご家族や地域の方々の理解、協力を得て、ご利用者様の意思を尊重し、個々にあった生活ができるよう支援を行い、また職員研鑽を積みよりよいサービスの提供ができた。

(Ⅱ－７) ケアハウスわけ

開 設：平成 13 年 4 月 23 日
 種 別：軽費老人ホーム 入居 定員：30 名
 構造・面積：鉄筋コンクリート造 3 階建 8 6 1 1. 4 5 m²
 全室個室 (30 室)

① 年間の利用者状況

当年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
利用者	835	878	817	897	881	798	865	795	842	896	777	806	10,087
入居	0	1	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	6
退去	0	0	2	0	1	0	0	1	1	0	0	0	5

前年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
利用者	867	844	878	899	895	871	928	886	887	899	821	829	10,504
入居	1	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6
退去	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	6

(Ⅱ－８) ケアハウスわけの総括

○入居者の平均年齢が 85.0 歳と高齢化が進み、入院者は、前年度の約 2 倍の 24 名 (延べ 661 人) となった。新入居者 6 名、退去者 5 名により、利用者稼働率は、92. 1%となった。

○特養・グループホームと共同で、月 1 回の地域ケアカフェ、その他年間行事等は予定のとおり実施できた。(1 月と 2 月は、ケアハウス入居者がインフルエンザに罹患され中止した。)